

考察＝表現に戸惑う学生たち

松 川 幸 寛

Yukihiro Matsukawa

は じ め に

子どもたちの大方は好奇心旺盛であり、制作好きであります。大人が目にもとめないような事物にも目を向け、些細な変化にも気付き、楽しいこと美しい物を喜びます。そして、手足と言わず顔と言わず、洋服までも絵の具あるいはドロコにして汚し、心ゆくまで制作します。既成の概念でついつい物を見、考えてしまう大人たちには考えられないような作品を制作、表現することも度々です。また、こちらが期待しつつ提示する事物に関心を持たず、期待した制作結果が得られないことも多いのです。私たち大人も、あの時代を過ぎてきた者たちであり、幼年期に喜び悲しみを体験してきた者であるにも拘らず、当時の心や感じ方を今再現するのは難しいことのようにです。故に、子どもたちの制作に喜びあるいは戸惑うのでしよう。

心ゆくまで納得するまで制作に没頭する子、制作を楽しみ、その中で心をゆったりと遊ばせる子、中には強く感じるものがありながら表現しきれない子、何を描いたら何を作ったらよいかを定められず悩む子もあります。十人十色、多種多様な子どもたちに将来相対していく者として、まず保育者自身が作る喜びを感じられる人間であってほしいと思います。子どもの頃そのままの心に戻って心身一体となって指導すべきだとは言いません。それは到底無理なことであると思うし、保育者が長い年月を積んで身につけてきた事物、感覚、価値感があってこそ、より良い導き手になれると思うからです。ただ、やはり作る喜びを感じてほしい。決して上手でなくても良いのです。(勿論、上手に越したことはないのですが)現場に入ったら、子どもと共に作る楽しさを味わいつつ、呼びかけヒントを与え、励ましていってほしいのです。

3年前、絵のみの生活から本学の幼児教育学に携わることになり様々な思いを胸に秘めていた私でした。学生たちと接してみて

- 作品は最後まできちんと仕上げる。
- 色彩構成のような作業は良くこなす。
- 粘土には意欲的に取りくんできた。
- 鉛筆で輪郭の下描きをキチッとした上でないと、絵を描き上げられない。(安心して作業が進められない。)

○自由テーマになると戸惑い、なかなか描ききれない。

○用具や素材をその時々を使いわけすることが充分でない。

上記のような点に気づきました。これらを含め現状を考えてみますと、大きな問題点が浮び上がってきます。以下、私なりの考えを述べてみたいと思います。

表現への戸惑い

言葉で 話す・書く

体で 演じる・踊る

視覚に訴えて 描く・彫る、作る、映す

聴覚に訴えて 歌う、演奏する。(作曲する)

等々、表現するための手段は様々です。この世の中から表現を取り除いたら、どんなにか殺風景になるでしょうか。意識的に表現することもあれば、無意識のうちに表現していることもあります。表現の度合いの大きい人もあれば小さい人もあるが、ともかく誰しも日常生活の中で何らかの表現をしていることは確かです。自分の考えていることを正しく相手に伝えることができたとき、考えなり気持なりを適確に書き表わすことができたとき、気持よく情感を込めて演奏できたとき、演じることができたとき、思っていたような色が出せたとき、描けたとき作れたとき。自分なりの表現、それが第三者から見て決して上手ではないと思えるようなものであったとしても、当人にとってはそれはそれは嬉しいものです。また自己満足に終わらず、何らかの感動・理解を相手方が持ったとき、その喜びは更なるものです。これは大人でも子どもでも同じことでしょう。私は主に描くという手段によって表現してきた1人ですが、思っていた、考えていた絵ができたときは実に嬉しいものです。ただし、それまでにはかなりの苦しみと努力が伴いますが。

絵ばかりで過ごしてきた私は、学生たちを見ていると何か変だなと感じます。何か変なのかと考えてみますと、それは自分の目(心)で表現しようとしなくて、それが大切なことなのだとことに気付いていないことです。または、大切だとは思いつつも、その過程を踏むことの楽しさ苦しさを味わおうとしないのでしょうか。作品を見ると、あまりにも借り物の多い表現になってしまっている傾向が強いのです。

例として、自由描画の際には“おとぎの国”的内容の作品が比較的多くなります。すると借りものの形も増えます。また、概念的表現法方であるぬり絵が復活します。この形はこう、これはこのように……と形が決まります。ですから、あとはこの形の中を色でさらっと埋めてゆけばよいことになります。想像の世界を創り出すことには大変良いものを持っているのですから、借りてきた形であっても各自の経験に照らし合わせたり描きたいことの内容に合わせてアレンジできるとよいのですが。あまりにもその効果的安易さの魅力に負けてのストレートな借用が気になります。これは、表現しようとするものの部分の位置や大きさの関係

を掴んだり、特徴的なものを抽出したり整理したりという造形的イメージの弱さか、精神的弱さからくる逃げがあるのではないかと考えられます。

幼・小・中・高と美術（造形）教育を受けてきているはずの学生たちですが、あの幼児期の素晴らしい感性が年とともに心の隅に追いやられているような感じを受けます。借り物に頼らず自分なりの実感で表現をしてほしい。その際には多くの苦しみもあると思いますが、経験を通して新しい発見があるとき、それ以前の物と自分との関係が本物になり得るでしょう。このことが新しい概念の誕生となり、技術的な面においても新しい工夫が生まれるものと考えます。発見が喜びに、喜びがまた新たな力を生み出してくれるのではないのでしょうか。更に言えば、苦心して描いた、作ったという経験、その苦労や産みの苦しみの経験こそ、指導する立場に立ったとき大きな力となるのではないのでしょうか。考えること工夫すること苦心することをやめ、通り一遍に形を整えることだけで済ませてしまった者には身につかない力です。このような貴重な経験は身につくものであり、幼児と完成の喜びを分かち合うことができ楽しみ苦しみ、迷いを理解できる保育者になれることと思います。

学生たちに描いたり作ったりすることが好きか嫌いかと尋ねてみますと、ほぼ半数の者が好きと答えます。ということは半数の学生が嫌っていることになりますが、その数の多さに驚かされます。そして、これは大変な問題ではないかと思うのです。幼児の頃、小学校低学年の頃あれほど喜々として制作した子どもたちは何処へ行ってしまったのでしょうか。精神的、身体的発達段階によって物の見方考え方、作業能力なども変化するものですから、幼児の頃そのままを望むわけではありません。しかし一体なぜ嫌いになるのでしょうか。

これもまた、学生たちに聞いてみました。答えの大半は「上手にできないから」というものでした。塗り方、削り方、切り方など表現にとって必要な技術ですが、それらの上手下手を言うわけです。作業的技術面から作品（表現）の良し悪しを判断し、更に好き嫌いとしているわけです。残念なことに“自分が感じていることあるいは考えていること”が塗ったり削ったりという作業面と結びつかないから嫌いだと答えた学生はいませんでした。救われることは、作業技術面であっても良し悪しを見る目（心）があることや生活の中で出会う様々な事物の良し悪しを判断する心を持っていることです。

ある学生は言います。「点がよくないから私は絵が下手なんです。」これが本当だとすると自ら嫌いになったのではなく嫌いにさせられたということになります。大きな大きな問題ではないのでしょうか。

また学生から直接言葉になって出てきませんが、表現すること自体を放棄してしまっている、何を表現しようか見つけ出し制作に気持ちを注ぐこと、その行為事体が面倒で嫌いという者もいるのではないのでしょうか。

大方が本来は好きであったものを何故半数もの者が嫌うようになってしまったのか、一朝一夕には解決できない問題であります。このような状況ではありますが、嫌いな子はせめて

好きになってほしいし、好きな者はもっともっと好きになってほしいと願っています。それと共に心配に思うことは、自らの手を汚しての作業を嫌う傾向が見えることです。これはとりもなおさず彼女等が未だ創造の喜びに出合っていないか、または少ないことを意味していると思われます。

幼児教育における造形活動の大切なものに、作る喜び云々とあります。この喜びを学生たちが、自分のものにし好きになってもらうためには、やはり自分で感じたことを自分の方法で表現することより他に方法はないように思います。今現在、自分が感じ（考え）ていることを自分の見方で表現することの繰り返しが表現することの自信に繋がると思われます。

素材等への認識

美術が好きになれないと答えた学生はその理由として、技術的な弱さをあげます。実際に学生たちは表現に必要な素材や道具をどのように扱っているのでしょうか。私が見てきた限りで学生たちのこのような様子が見られます。

○画用紙をスケッチブックから切り離してしまうと表裏の区別なく描画に入ってしまいます。

○工作時には、紙を定規や机の角でシゴいて丸めたり折ったりと、今までの経験を生かして作業できる者もいます。しかし紙目を読んで作業しているわけではありせんので、少し厚手の紙になると無理を生じてしまいます。

○クレヨン、パス、鉛筆などは先だけを使うという固定概念があり、芯の腹を使ったりやクレヨン等の巻紙をとって広くザクッと塗るような工夫が生まれにくいようです。表現したい心と一体となって形に沿って丸く、平に、強く、速くなどと筆やクレヨンを運ぶことに欠けた仮死状態の表現になりがちです。

○刃物類は貸し借りの際の扱いが無造作で、あぶなかしさを感じます。

ハサミについては、直線を切るときは連続的に上手に使用しますが、円や曲線になると、紙を持つ手とハサミを持つ手の動作がうまく咬み合わないようです。ナイフになりますと尚更で、左右の手の役割、動きが一体とならず刃の角度や方向が定まらないようです。勿論、全ての学生が上記のようであるということではありません。色や形を産み出し、道具を駆使して思うさま制作する学生も多数いるのです。

そして学生たちが挙げる技術的な弱さとは、究極キッチリした下描きができない、サラット美しく塗ることができないということを言っているのではないのでしょうか。彩色の際にはみだしたり塗り違えたりすることは、イメージの崩壊への恐怖を呼び、それによって緊張感、集中力が断たれることを嫌うように思われます。

幼児の頃から大学生に到るまでに手にする素材、道具は数多くあり、造形表現に使用されるものには、紙・絵の具類・筆・のり・ハサミ・ナイフなどがあげられますが、中でも使用

頻度の高いものについて使い方、知っておくとよいことを簡単に述べてみます。わずかな認識を加えるだけでも、表現に入る前に多少の手助になるのではないのでしょうか。

〈絵の具類について〉

紙（その他）に着色できるものを絵の具といますが、普通絵の具と言えば水性（油）絵の具と思われがちです。幼児期に使用されることの多い固型絵の具のクレヨンやパスを除くとほとんどが水性絵の具になります。そして教材としては不透明水彩絵の具が多く使われています。

①水性絵の具

- | | | |
|------------------|-------|-----------|
| ・水彩絵の具 | 透明水彩 | ・その他に墨汁 |
| | 不透明水彩 | インク |
| ・ガッシュ（不透明） | | |
| ・ポスターカラー（不透明） | | カラーインク など |
| ・粉絵の具（不透明） | | |
| ・アクリル系絵の具（透・不透明） | | |

不透明水彩の特質として、隠蔽力が強いことがあげられます。薄く溶いた場合には透明水彩風に使えますし、透明水彩のように計画的に慎重に色を重ねて色の深みを出していくのに較べて、覆う力が強いのはみ出したところや塗り違った部分を楽に直せること、少々厚塗りも可能で心の動きを大切に筆を運べる利点があります。糊を混ぜてモデリング表現（フィンガーペイントに）、アラビアゴム・ニカワ・木工用ボンドを混ぜて艶を出すこともできます。

②固型絵の具

- | | |
|-------|------|
| ・クレヨン | ・コンテ |
| ・パス | ・鉛筆 |
| ・パステル | ・その他 |

クレヨンとパス（普通クレパスと呼ばれているもの）について述べてみますと、両者の違いは固さの違いぐらいしか認識されておられません。画用紙についた色の部分を見ますと、クレヨンの方が紙の目の凸部にだけ（力を入れると凹部まで）色がつき、パスはほとんど紙面が見えないほどに色がのっています。

両者の大きな違いは混色するかしなにかにあります。指や布なのでこすったりしなければクレヨンは混ざらずに層に重なっていきます（色鉛筆も）が、パスは画面で何色も混ざって厚くぬることもできますし、ひっかくとすぐ剥がれます。ですからスクラッチ表現にはパスの方が向いていますし、少し細かな描法にはクレヨンが向きます。先を削ったりするのもパスは不向きですが、クレヨンでは可能です。

学生たちは手が汚れることを嫌いますが、巻紙をとって腹で広い面をザーとぬることも表現の幅を広げることになりましょう。

〈紙類について〉

大別すると和紙と洋紙とになります。種類も多く、大きさや厚さ、表面の肌合いや白さ、吸水性の違いがあり、ドーサ処理（吸水性の調節）や色つきもあります。

一般的な画用紙について述べてみますと、同種類でも厚さや大きさ、表面の目の粗さの違いがあり、それぞれ表裏の肌合いもよく見ると違います。ツルツとした面ザラツとした面とどちらに描いても構わないわけで、それなりの効果が出ます。これは絵の具のつき方、発色に大きな違いがでることによりますが、表現にとって大切な要素にもなります。工作时にややもすると紙目を無視して丸めたり折ったりします。薄手のものは別として厚手になりますと、仕上がりがきれいになりません。ですから使用前に縦目か横目かを確認すべきでしょう。紙目は紙の伸縮にも関係がありますので、本を作ったり、版画を刷ったり、厚薄の紙を糊付けするときなどには知っておくべきことだと思います。

〈筆について〉

丸筆・平筆があり、それぞれの筆触の違いがあります。毛の質によって固さの違いや腰の強さが違います。

丸筆は描くことに向き、平筆は面を塗ることに向いております。使用頻度は丸筆の方が高く、丸筆は細い線から太い線、筆の腹を使って面塗りもできて幅ひろい使い方ができるからです。

学生の使用する筆は絵の具類と同じく文房具店で購入しますので、学童用の安価で腰のない筆が多いようです。気持良く制作するためにも、腰のしっかりした大・中・小の丸筆はぜひ用意させたいものです。

〈糊について〉

便利なスティクタイプの糊の出現で、糊は指でのばして使用する習慣もうすれ、人間の感覚の素晴らしさ、指先の確さと出会う機会も減りつつあるようです。

指先の確さを見直すことのできる作業の必要を感じます。

〈刃物の類について〉

特にナイフについては、かなり多くの体験を通して使い方を身に付けていくより仕方がないように思われます。

道具について補足的なことを言いますと、学生のみならず社会、家庭全般でもその使用度が減少していることは明らかです。使用する必要のない生活になってきているとも言えます。使うはおろか目にすることさえも少なくなってきている物もあるでしょう。

かつては鉛筆を削るのになくてはならなかったナイフ。小学校低学年でさえ各自で持参し使用していたナイフですが、現在の学生たちは、それを手にする機会が極端に少なかったよ

うです。手動式削り器、電動式削り器とそれに替わるものがあるからです。美大の受験のときでさえ、鉛筆ではなくシャープペンシルを使用する学生が見られる時代です。

チューブから必要なだけ出して、指でよくよくのばして塗った糊も、今ではスティック状のスマートなものに変わりつつあります。これなら手を汚すこともありません。

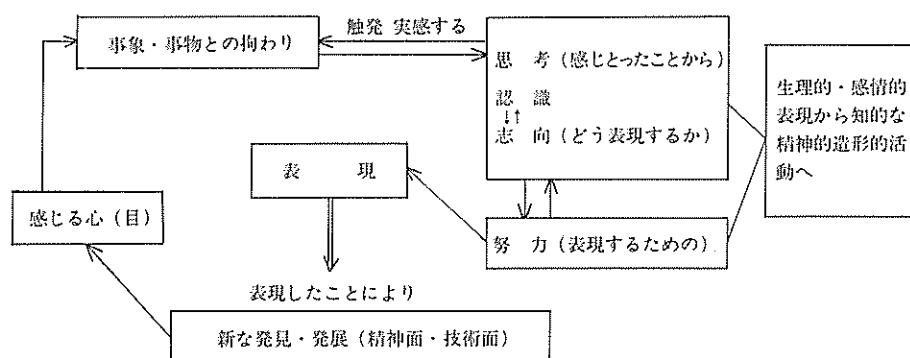
様々な物品が氾濫しており、お金を出せば何でも手にすることが可能な時代になりました。全て昔の方が良かったということを言いたいわけではありません。現在に生きている私たちですから、その中に存在する物を利用し、表現していくのは当然のことですし、そうしなければやっていくことはできません。ただ便利な時代だからこそ、“手による経験が必要ではないか”と思います。それは各自に精神的、物質的に様々な物を産み出す力を与えてくれるからです。また喜びもです。

－感ずる心と自信－

以上、素材等に関して少し書いてみました。が、技術が確かになり素材をよく知ることができれば表現できるのでしょうか。描くこと、作ることが好きになれるのでしょうか。

表現は個人個人の心が真に感じたものを表出されることによってできるものです。それは私たちの心の中に、経験を通して蓄えられた感動からだけ生まれてくるものです。生活する中で、何かに気がつく（感じる）ことはなかなか難しいことで、興味のある事物についてはスムーズでも、それ以外になりますと触発されるショックが大きいかどうかが鍵になります。また見る視点、考える視点を柔軟にし感覚を目覚めさせておくことが大切です。

真に感ずること（心）を深めるためには感ずる目（心）をどう育てるかなのですが、実感としてとらえたものを表出することの繰り返しにより培われるものの様です。表出するためには考え、発見し、認識をより深め、真実を掴みとる必要があります。つまり事象、事物を自己との関係として（内的世界・外的世界を）きちんととらえられることであり、この認識するという行為がまた表現する目と心を養うのではないのでしょうか。ですから私たちが表現行為をすることは、下図のようなサイクルをくり返すことによって、自らの感性（心）を自から豊かに太らせ育てることになると考えます。



しかし、表現することで自ら感じる心を育てるといっても具体的な表現活動であってこそ、ものの見方、感じ方、考え方の質が育ち深まるわけです。つまり、躍ったり、歌ったり、描いたり、作ったりなどが真に感情表現になっているかどうかなのです。

真の感情表現にしようと志向し努力することによって、今まで見慣れていたり見過していた事象・事物に対して、新しい発見（実感）が得られるかどうかなのです。そして自分にとって有意義なものをわずかでも表現を通して認識し定着させてゆくことだと思います。そしてこのことが自信に満ちた表現活動へのつながります。

嫌い、描けない、下手、作りたいことがない。学生たちの間からチラホラ見え隠れする思いを受けとめると、ただ〇〇〇を描け、〇〇〇を制作せよと言っているだけでは済まされないような気がしてきます。幼児教育学の場だからこそ、自らが作ってしまった殻を破ってほしいと願うのです。良い感覚を持ちながら表現しきれない、イメージを表現する段階になると技術的に行きづまる、うまくできないという先入観、これらのことを乗り越えて好きになってほしい、自信を持ってほしいと思うのです。

私自身、どんな手立てを取るべきか定まりきらず、考えながら悩みながら指導にあたっているのが現状です。現場で即利用できるような作品を制作することも必要ですが、やはりそれだけでは再現するだけに終わってしまうのではないかと心配します。考え出し、表現し、喜び、それから生まれるものを力としてほしいと思います。

—いくつかのてだて—

てだてとして、下描き、借りものに頼らず画面構成（表現）ができないものか、学生たちそれぞれの心に蓄えられているイメージを引き出す方法はないものか考えてみました。そこで、私たちが概念的にすぐそれと解かる形の無いものの中から、形を探し出すことで試みました。

○フロッターージュ・墨流し

フロッターージュしたもの。墨流ししたものの中から何か形を見つけ出すこと、それはある動物の全体の形であったり、その部分の形であったりしますが、何かに見えたら切り抜くことにします。切り抜かれた形は様々ですが必要なものだけを画用紙へ糊づけして構成します。部分の形は必要であれば加筆して全体の形にします。構成ができたところで、それぞれイメージを明確になる様にバックやたりない部分やものを加筆しながら彩色し、仕上げます。

不定形の中から形を見つけ出す（イメージを引き出す）ことは大変なことで、抵抗がありすぎて更に表現することが嫌にならないか心配しておりました。確かに抵抗は大きかった様です。

○コラージュ・小石

続いて、写真によるコラージュと小石に形を見つける作業をしました。前述の2つの

ものからの作業よりスムーズに制作に入れました。小石自体形があり実感が強いこともあったか、写真においてもそれぞれの形があり、言葉を繋ぐように組み立てることができたのではないのでしょうか。コラージュにおいては、気分が乗っている子はあっという間に数点も作ってしまいました。

フロタージュや墨流しの中から探し出される形は様々ですので今まで組み合わせたことのない構成ができたようです。ですから新しいイメージの発見になったようですし、加筆することで部分と全体とを関係でみて形を整えることもできたようです。

例えばコラージュ表現において、人と車を組み合わせるにしても写真の大きさを違えるだけでイメージはメルヘン的な、パロディ的な……と変わります。このことから同じものの組み合わせでもそれぞれの形の大きさを変えたり、バックを変化させるだけでも表現する（表現したい）内容を創れることに気が付いた者が多かったようです。

この作業後学生たちは表出することに固さがとれ活発になった様です。少々荒っぽさが目立つこともありましたが多少きたなくたって構わないとの居直りか、自信をもって恥ずかしがらず表現できるようになりました。

○ナイフ

私の時間だけでも鉛筆を使い削ることに慣れる様にとということでしたが、あまりにも削り方が気になりましたので竹トンボを作らせましたが、前述しました通り1、2度何かを制作するだけでは身に付きません。

○ハサミ

直線切りに比べ円切りは、両手の動きの関連がよりうまくいかなければなりませんので、どうしても円切りをしなくてはならないトムボーイを作らせました。

ドーナツ型に紙を切り抜いてコイルバネ状に貼り合わせるだけのものです。貼り合わせる箇所直線切りがあるだけであとは円切りだけです。直径6 cm位の円を25枚前後切り抜きその中をまた直径4 cm位の円を切り抜きますのでかなりの練習ができるわけです。

○オカリナ

他領域との関連をもたせた制作ができないかということで粘土制作では、用のもの（器など）の他にオカリナを作らせました。

粘土制作は描くことよりも意欲的に作業をするのですが、オカリナ制作の時はそれにも増して意欲を見せました。

最初に音が出るための歌口と吹き口の関係を知ってもらうために、はと笛を作らせてからオカリナ制作に入りました。音合わせの時にオカリナの腹がへこんでしまったりで見た目の良くないものもできてしまいましたが、それでも自分の笛であり自分で音を作るんだということで、唇を土で汚しながら目を輝かせておりました。それにしてもピアノ練習で鍛えた学生たちの音に対する確かさには感心させられました。（音合わせに夢中で腹がへこんだり吹

き口がつまったりでしたので、音合わせは製作時にはば合せておき、乾燥後と素焼後に正しく音階を合わせました。)

オカリナ制作で、あんなにも音作りに意欲をみせる学生たちですから自分たちで作った楽器で合奏できたら喜びはどんなにかと想像がつきます。

おわりに

私もここ数年やっと描く(表現)することが楽しくなりました。(以前の楽しさとはまた別な感じ)

表現すること(他の仕事や作業もそうと考えられますが)はその時点々々での抵抗というか苦しさがあるものと感じております。むだな苦痛・抵抗は無いに越したことはありませんが、これらの苦しみを表現に向けてどう乗り越えるか努力する時に、一つ先の新しい何かが見えてくるのではないのでしょうか。

私は学生たちにそれぞれの力で乗り越えられそうだな、と、自信を持ってくれるようになればと願っております。